

大震災後の再挑戦の地に行く

—いわき市・南相馬市・飯舘村での定点観測

東洋経済新報社編集局記者

浪 なみ

川 かわ

攻 おさむ

* 繰り返し同じ場所へ

* 政治家の時間は止まっている

* 夏を境に光景が変わった

* いわきに流入しても仕事がない

* 失業保険の期間延長が逆効果

* 地方にすごい人がいる

* Iターンの人たちの不思議

* 気持ちが崩れていく

* 東電への提出書類が難解な訳

* 人心の荒廃で何が起きるのか



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日はレジュメがばらばらで申し訳ないのですけれども、これは浪川さんが昨日の夜中まで『会社四季報』の取材執筆に追われてどたばたしたためです。日本有数の金融記者として金融危機の話をしていたくべきところですが、たまたま再来週、加藤出さんをお願いしてありますので、今回は金融についてしゃべりたい欲求をちよつと抑えていただきました。

浪川さんは3月11日以降、ほとんど毎週のようには被災地に行かれていて、30回を超える定点観測をされています。新聞やテレビとはまったく違う視点で取材をし、東洋経済オンラインというネットの発信や、石橋財団の『自由思想』にも連載しておられて感服していたものですか

らお願いしました。それではよろしくお願います。（拍手）

浪川 浪川でございます。お付き合いのほどよろしくお願いたします。

今、浅野さんが言われたように『会社四季報』が例年よりもしんどい状況になっていて、今日の朝も金融機関のトップが決算説明をするというので出かけてきたり、ばたばたしています。例年ここでお話をする機会をちよつと抑えて、ありがたいことだと思っています。

今日は震災のことについてお話しますが、この手の話はしたことがないのでちよつと緊張感があります。しかし、本日もご出席のすばらしい専門家である宮崎勇先生の前で世界経済を語っているよりは楽かなと思っております。（笑）